

What is it like to volunteer with TRACOS?

トラッソスでボランティアするって、どんなだろう？

「気軽に参加を！」って言われても、その気軽が難しいこともあるよね。
どんなのかは参加したら分かるだろうけど、分からないから参加しづらい...
だから、高校生の時にトラッソスにボランティアとして参加してくれた「はるコーチ」に、
トラッソスでボランティアするってどんなだったか質問に答えてもらいました。

1. 高校生の時、ボランティアをしてみようと思ったのは？

周りの友達が大学受験で時間がない中、自分は内部受験で時間に余裕があって、それなら、その余裕ある時間を何かに使えないかと考えたんです。これまで短期ボランティアに参加したことや、バイト禁止の学校&ボランティアなら家族も許すというのがあったのでボランティアをしようと思いました。

2. トラッソスでボランティアをしてみようと思ったのは？

将来、子どもとかかわる仕事につきたいと思っていたので、初めは好きなことを活かしたいと思い『子供・運動・ボランティア』で検索してみました。色々なボランティアが検索結果に出てきた中で、『サッカー』という文字がありました。サッカーなら経験があるし、今までやっていた短期の保育ボランティアでは学べなかったことを経験ができるのではないかと思います。それに、それまで「障害児」についてはあまり知らなかったので、「知らない」を「知る」チャンスだと思ったのが、トラッソスでボランティアをしようと思った理由です。

自分の人生の中で出会うことの
少なかった年上のボランティアの人達と
会話をすることも新鮮だった。

3. 当時、実際にボランティアしてみて、楽しいと感じたことや達成感を感じたことは？

子どもたちから、「はるコーチ」と名前を呼ばれ声をかけられるようになった時、一緒に遊びながら意思疎通ができた時に楽しさ・嬉しさを感じました。達成感を感じたのは、なかなか振り向いてもらえない、受けこたえができなかった子と自分なりに声をかけたり、ボールを目の前で動かしてみたりとアクションを起こした時に反応がかえってき



はるコーチは、社会人になった今もボランティアとしてトラッソスに参加しています。

た時でした。特に、気まぐれではなく、子どもが自発的に『繰り返し』できたときは嬉しかったです。また、自分の人生の中で出会うことの少なかった年上のボランティアの人たちと会話をすることが新鮮で楽しかったですね。

4. 当時、大変だったことはありましたか？または辛かったことはありましたか？あった場合、どのようなことでしたか？

はじめて対面する『障害児』との関わり方が、今まで接した子供のようにはかずに分からないことが多くて大変でした。図書館やネットで調べるにしても、誰がどの症状なのか障害名に知識がなく理解することが難しかったです。辛いと感じたのは、子どもとの関わりで初めてのことばかりで、何が分からないか分からずにいた時です。他のコーチ達にも聞けず、具体的な行動も分からないまま子ども達と一緒にいる意味があるのか、役に立っているのか不安で仕方なかったです。またその時期は、話しやすい相手もいなくてどう話を切り出しているのか分からず、悶々としたまま通っていました。

5. トラッソスでボランティアをした事が、仕事や私生活の何かに役立っていますか？

とても役に立っています。ボランティアをしてトラッ子（トラッソスの子ども達のニックネーム）と出会っていなければ、人を見る『見方』に『偏見』が多く生まれていたかもしれません。そう意味では自分を変えてくれました。障害がある人を見ても『一人の人間』として見ることができています。

今、保育士として働いていますが、子どもの見方にゆとりを持てるのもトラッソスの影響が大きいです。『こうでなければならぬ』という見方ではなく、「そういう時もあるよね」とか「なにが楽しいかな」、「これが好きなんだ」など視野や時間、見とりに広がりをもった保育を実現できていると思います。他の保育者にも、私の見方が伝わりつつあるときは嬉しいです。

ボランティアには、
目に見えない形の実感がたくさんあるよ。

6. 現在、高校生や大学生に「ボランティアのススメ」をしたら、どんな声をかけますか？

バイトは、目に見える形で実感がある。ボランティアは、目に見えない形での実感がたくさんあるよ。自分次第で自由に決められる時間が学生時代にはあって、選択肢もたくさんある。今のうちに好きなように「社会」を学ぶのも一つだよ！

